

環境改善を実施した林内ホダ場土壌の放射性物質状況の変化 (5)

— 環境改善 (A₀層除去) を実施してから約4年半後 (29年4月) の結果 —

1 はじめに

土壌に含まれる放射性セシウム(Cs)がホダ木に及ぼす影響を抑えるために、堆積有機物層(A₀層)の除去(環境改善)が行われています。環境改善による土壌のCs濃度(以下「濃度」と書く)の低減効果は、実施の1年半後でも持続することが明らかになっています(林業技術情報No.65)。A₀層の濃度は、新たな落ち葉により上がる可能性がありますので、環境改善から約4年半後のA₀層の濃度と、地面1m²当たりのCs量(以下「量」)を測定し、これまでの結果(No. 60、65、78、86)と比較して、環境改善の効果の持続性を検討しました。

除去区(赤矢印)の1/2~1/3程度でした。これらのことから、環境改善の効果は除去の4年半後でも続いていることが確認できました。また、濃度や1m²当たりの量は、全体的に低下傾向を示しました。このことから、新たな落ち葉によるCs濃度の上昇は小さくなっていると思われます。



A₀層除去4年半後の除去区の地表(スギ林)

2 調査方法と結果

【方法】平成24年11~12月に、一関市内のスギ林、アカマツ林、広葉樹林の3調査地に、A₀層除去区と非除去区を設けました。環境改善から約4年半後(平成29年4月)に、各区内の13~16点からA₀層とA層を採取して、生重量当たりの濃度と量を求めました。(採取方法はNo.60参照)

【結果】各調査地の地表には樹上から枝葉が落ちていましたが(写真)、除去区の濃度(図上段、青矢印)は依然として各調査地で非除去区(赤矢印)より小さな値を示し、1m²当たりの量も、除去区(図下段、青矢印)が非

3 成果の活用

環境改善の効果の持続性は確認できましたが、Csは依然として地面に存在するため、今後も栽培管理を確実に実施することが必要です。

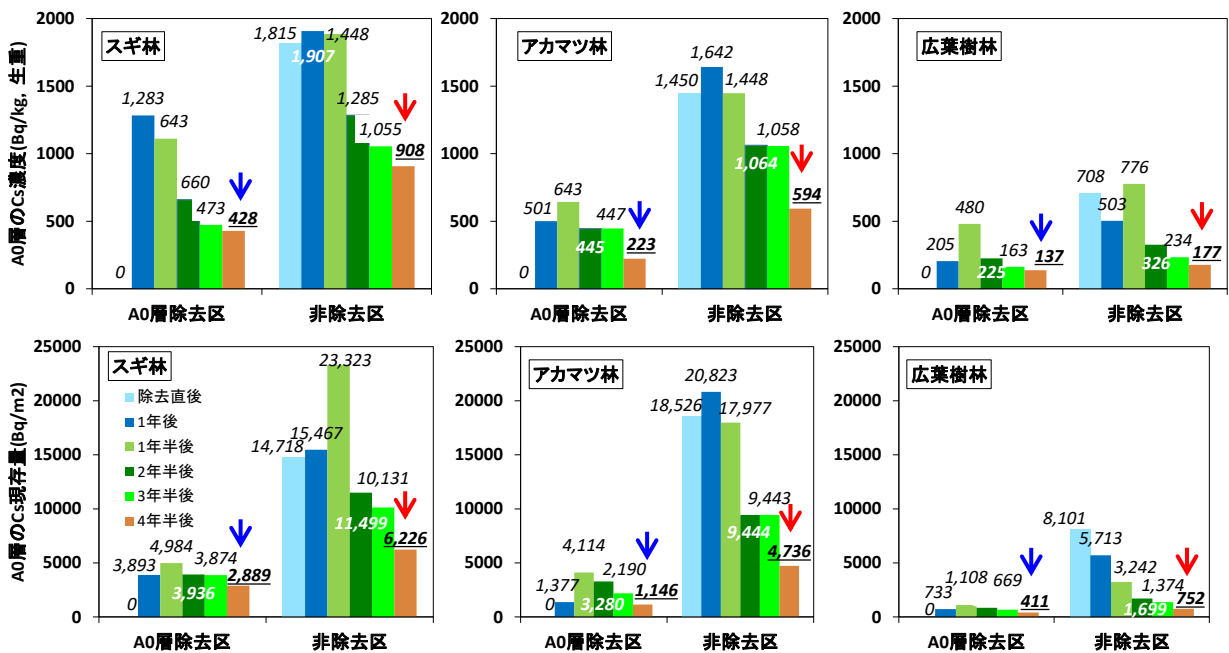


図 A₀層の放射性物質濃度(上段)と放射性物質量(下段)

棒の上の数字は測定値。最新(H29)の値は太字+下線で示した。

(担当 研究部 上席専門研究員 成松 眞樹)

連絡先	028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11	T E L 019-697-1536
	岩手県林業技術センター	F A X 019-697-1410
	ホームページアドレス http://www2.pref.iwate.jp/hp1017/	